

社会人経て介護福祉士に

人手不足の業界で注目

高齢者の増加に伴い、介護現場の人手不足が深刻化する中、新たな担い手として社会人経験者が注目されている。青森県南地方では、八戸学院大短期大学部が昨年、求職中の社会人経験者が国家資格「介護福祉士」を目指す職業訓練を県から受託。現在、50代の男性1人が資格取得に向け奮闘中だ。県内の介護関係者は「生の新たな挑戦の機会になる。介護の仕事を選択肢の一つとして考えてもらいたい」とアピールする。(工藤洋平)



介護福祉士を目指し着替えの介助方法を学ぶ木村勝信さん(中央)。新たな担い手として社会人経験者が注目される

11月上旬、八戸学院大短期大学部

八学短大で 職業訓練中 52歳・木村さん(八戸)

「前職の理美容とのコラボ夢」

「体調はどうですか。大丈夫ですか」
2月上旬、八戸学院大短期大学の教室。介護福祉学科の1年生が半身にまひがある高齢者を想定し、着替えの介助方法を学んでいた。10、20代の若者と一緒に真剣な表情で取り組んでいたのは、八戸市の木村勝信さん(52)。前職は理美容専門学校で、以前から介護の仕事に興味があった。「人に喜んでもらいたいというのが基本にある。まずは身をもって介護を理解し、スキルを身に付けた」と意欲的だ。

職業訓練の期間は2年。五十路を越えてからの決断だったが、家族や周囲の支えもあり勉学に打ち込んでいる。「介護福祉士やケアマネジャー(介護支援専門員)の資格を取りたい。まだ夢ではないが、前職の理美容とのコラボを通じ、新たな雇用創出に貢献したい」と将来を見据える。厚生労働省によると、全

国の介護職員数は2019年度が約211万人。増加が見込まれる介護サービスに対し、職員数が現状のまま推移すると、23年度は約22万人、40年度には約69万人が足りなくなる」と試算される。
介護需要の高まりに対し、「4K(きつい、汚い、危険、給料が安い)」といったイメージが根深く、介護職を敬遠する若者も多い。
現在は人口減少や少子化で、求職者の「売り手市場」が続く。人材確保のためには、いかに待遇改善や魅力向上を図り、次世代を担う若者に加え、幅広い年齢層に関心を持ってもらうかが鍵となる。
介護福祉学科の赤羽卓朗

学科長は「絶対に必要な職種。社会人経験者は、これまで培ってきたキャリアを生かすことができる」と強調する。
その上で、「介護人材の養成や確保は、地域の未来と大きく関わる。この地域で人材が育ち、働いてもらえれば、全ての人が安心して暮らせる社会になるはずだ」と期待を寄せた。